

公益社団法人 宇都宮青年会議所  
2014年度 第3回 常任理事予定者会議事録

日 時：2013年 11月 14日（木） 18：10～23：30

場 所：コンセーレ 2階カトレアホール

出席者：

（ 理 事 長 ） :代理 福田(治) (敬称省略 以下同)  
（ 直 前 理 事 長 ） :代理 山本  
（ 副 理 事 長 ） :朝田、木村(英)、福田(之)、小瀧、須山  
（ 専 務 理 事 ） :中島(崇)  
（ 監 事 ） :澤畑  
（ 担 当 常 任 理 事 ） :金、林  
（ 全国大会招致会議議長 ） :羽石  
（ 会員拡大会議議長 ） :代理 高松  
（ 協働連携特別会議議長 ） :篠崎(達)  
（ 法令会計審査会議議長 ） :廣田  
（ 事 務 局 長 ） :橋本

1. 開会宣言 <中島(崇)> (役職名省略 以下同)
2. JCIクリード唱和 <橋本>
3. JCIミッション唱和・JCIビジョン唱和 <羽石>
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和 <金>
5. 関東地区宣言唱和 <林>
6. 出席者の確認 <橋本> 全16名 出席理事13名
7. 議事録作成成人並びに議事録署名人の指名 議事録 <総務委員会>
8. 前回議事録の確認 <中島(崇)>
9. 議題並びに資料の確認 <橋本>
10. 理事長挨拶  
欠席 割愛
11. 2013年度直前理事長挨拶 第47代 理事長 福田 治久君

冒頭に2014年度の常任理事予定者会議でございますが、専務からご説明ありましたとおり本年度直前理事長であります、山本直前理事長におこしいただいておりますので、非常に新鮮というか、やり易いようでやりづらい常任理事会でございますが、何卒最後まで宜し

くお願いをいたします。

まずは2013年度でございますが、先日執り行われました11月の研修例会、こちらは皆様方のご協力のもと、担当された澤畑常任理事におかれましては、久々に事前登録では1000名を超える市民の皆様方に応募をいただきまして、盛大に開催されましたことを本当に心より御礼を申し上げます。私自身も本年度の会議で何度も申し上げましたが、想いがあり11月に研修をいれさせていただいております。そこに行くまでのプロセスでは本当に色々ございましたが、素晴らしい有終の美で事業自体を集結することができまして、本当に心より感謝を申し上げる次第でございます。

また、今日山本会長が、始めて14年度のLOMの会議に出席しております。山本会長を第60代の関東地区協議会の会長として輩出する宇都宮市JCでございますが、第1回目の関東地区協議会の会務役員会、それと役員会がコンサーレで開催されました。本当に須山運営専務予定者、そして篠崎事務局長予定者は大変だったと思います。その他にも飯野次長と、今日は来ておりませんが黒川次長がおられました。やはり、関東地区内のブロック会長の皆さん、運営専務の皆さん、関東地区の役員の方々の皆さん全員が集結して行う会議でございます。会長輩出LOMとして、あるべき姿というものがあると思いますので、常任理事の皆様には、ちょっと耳が痛いかもしれないですけども話をさせていただきたいと思います。出向しているメンバー以外、その他理事長、専務以外でどなたか昨日は行かないといけなかったのではないかなと、少しでも思った方はいらっしゃいますか。いないだろうと思います。金委員長にも言いましたけれども、委員会が何かやられていましたね。この関東地区協議会はずごく重たいものです。その重たいもののキャビネットを宇都宮で持たせていただいているわけです。会長がものすごく気を張りながら、日本全国を飛びまわっていることは皆さんもう色々な所からの情報で多分わかっていますよね。その山本会長を支えると言っていますけれど、それって一体どういうことなのかをちょっと考えていただきたい。山本会長がいる旅先に行ってくださいだとかそんな無茶なことをいうつもりはありません。関東地区協議会の予定者段階の会議というのは、会長輩出LOMの地でやられます。11月の今回が1回目で、12月の来月にもう1回あります。そして、1月最初の年が始まって最初の役員会もおそらく宇都宮のはずです。あと2回ありますが、会長を輩出する年の常任理事会構成メンバーであれば顔を出すことは当然だと思います。正副はもちろん、いないことがおかしい。確かに世界会議もあり、非常に2013年度のスケジュールが詰まっていますけれども、そこに出ているメンバー、ましてやそのキャビネットを担うメンバーがこの常任理事会にたくさんおります。その人たちを後押しするということはどういうことなのか。金常任みたいに世界を飛び回っていたら仕方がないです。助けようがない。それでも皆やはり頑張ると、地元でやっている時くらい駆けつけて応援しましょう。今までも都度、僕が関東地区大会主管LOMの理事長予定者となってから、丸2年位ずっと関東地区協議会の役員会等にオブザーブをさせ続けていただきましたけれども、僕はしたくてもあともう1回しかできない。そのあとにこの山本会長、そして運営専務と事務局長を支えるのは、この常任理事会構成メンバーの皆様以外はありません。村上理事長と中島専務が行くのは当たり前のことです。村上理事長、中島専務の後ろで常任理事会構成メンバーがいる姿を見せることが地元で出来なければ、他の土地でやっている時になんて出来ません。そこをもう少し意識していただきたい。出向者もたくさんいて日本JCも大変だと思いますが、関東地区協議会は会長を輩出しており、158LOMから宇都宮が見られているのです。是非ともその点は、まずは常任理事会構成メンバーの皆さんに意識をしてもらうところから始めてください。それと、この場ということかどうか微妙ですけど、運営専務、事務局長、そして飯野次長にいいたいのですが、次年度も関東地区のキャビネットには多くの多くの出向者を出しております。その中でもものすごく強いチームを真っ先に出しているはずですよ。昨日の設営では少し事足りない。水戸さん、松戸さんから受け継いだキャビネットのプライドを全部受け継いでいないのではないかとこのように強く見受けられました。是非ともその点をしっかりと認識してください。あなた方のところにそれだけの強いメンバーが集まっているのです。常任理事会構成メンバーが黒川次長を入れると4人いるわけです。金総括のところは委員長なしでもここにいます。

でもそれだけ、LOMとしても力を入れているポジションですから、設営に絶対恥がないようにしてください。そして、その会議が他の地で開催される時に行くのは少し厳しいことかもしれませんが、宇都宮で開催される時に駆けつけられない理由は、出向をしていないと思いますので、是非とも運営専務、事務局長は、関東地区158LOMを束ねる運営専務、事務局長ですから、是非自分自身への厳しさ、そしてメンバーへの厳しさの両方を持ち、望んでいただきたい。宜しく願いいたします。

よりにより村上理事長がいない時に協議13案件と、ついているのかついていないのかよくわかりませんが、今回はじめて協議にあがっているものも多数あるでしょう。私も今年度の立場からみると始まってくれたことがまずは一つの安心ですけれども、次年度の進捗状況が正直早いか遅いかで言えば、遅い部分が多々あります。それを詰めるのは理事会であり、この常任理事会でしかない。是非ともこの皆様方の英知を結集し、素晴らしい常任理事会になるよう心掛けていただければと思います。先に言うておきますが、この9番、事業計画、年間フレーム等については、私でも身に余る面が多々ありますし、直前に置かれましては本年度のブロック会長です。自分のものを通しながら、関東地区のブロック会長の皆さんのものを昼夜問わず直しやられてきたお方です。多分、全部ゼロベースですというぐらいのところもあると思いますけれど、それを日本JCと同じようにやっていたらおかしくなりますので、皆さんがどこまでのところに持っていかなければならないのかを考えながら、我々でご指導させていただきたいと思います。是非とも有意義な常任理事会なりますように、そして少しでもこの皆さんの絆が2014年度として、2013年度のお時間を拝借してと言っている以上は、しっかりとやってもらわないと困りますから、その点をご理解したうえで素晴らしい常任理事会にしていきたいと思いますので、宜しく願いいたします。

#### 第46代 理事長挨拶 山本 和紀君

まずは2014年度の常任理事会がこのように盛会に開催されておりますこと、改めてお喜び申し上げる次第でございます。2014年度の会をはじめて参加させていただきますが、本当に又聞き之又聞きぐらいで聞くだけなのですが、本当に一生懸命奮起されていること、本当にお喜び申し上げます。また、村上理事長でございますけれど、このようなことは1回や2回じゃないということは、皆さん存じ上げて準備していることと思います。こんなんでうろたえているようでは、160人を束ねる宇都宮JCの中核を担う、常任理事など勤まるはずがございませんので、うろたえることなく、我々でしっかり準備をしていけばいいだけの話でございます。そして村上理事長に大丈夫でしたと、この報告だけで理事長は救われますので、任せてください大丈夫でした。ということ副理事長、専務理事長中心に皆さんで作らせていただけたらと思います。また、色々不慣れでわからないところもあると思うんですけど、設営の方も本当にお疲れ様でした。福田理事長のほうから厳しくもあり、暖かい言葉がございましたが、両輪です。LOMあつての出向であり、そして出向は宇都宮の看板であります。私は、今年42代のブロック会長として出向させていただいております。常に宇都宮JCはこんな元気な事業をやっている。こんな元気な人を集めた例会をやっている。これがブロック会長として出させていただいている誇りでございます。来年は関東地区に行きます。関東地区の会長と日本JCの常任理事でございます。日本中、北海道から沖縄まで行きます。その時に関東地区はどうなっているのか、宇都宮JCがどんなことをしているのか、これが私のプライドであります。皆様にお任せするしかございません。どうしても2014年度、強い宇都宮JCの組織を作っていただければなりません。それを作っていただくのは皆様でございますので、しっかりと自覚とプライドを持っていただけたらと思います。常に常にこれでございます。この中で、常任理事会構成メンバーである皆さんの中で、僕が一番皆さんにお伝えしたいのは、常任理事会で一番大切なこと、僕が思っていること、皆さんそれぞれあるかもしれないけれど、僕が経験上思っていること、ここの会ではスピードです。常にスピードです。このスピードをどのように認識をするか詳しく説明をしますが、こ

のスピードは委員長と常任理事の情報の交換のスピード、資料を作るスピード、副理事長がどのようなことを考えているかというのを把握するスピード、その全て、この常任理事会構成メンバーにスピードを要求される場所だと思います。1分1秒無駄にすることなく、ないといったら本当に365日24時間JCをやる人は、この中では一人もおられません。ですからJCと向き合った時、JCと向き合っている瞬間は、真剣に取り組んでいただきたいと思います。これが160人以上のLOMを束ねる常任理事ということでございます。宇都宮JCは対外的にも非常に注目させる瞬間がたくさんございます。これを担っているのは皆様です。ここの会議のメンバーは宇都宮JCと言えば俺のことだなと思ってください。皆様の後ろには1人、2人の委員長がいて、その委員会の中には10人から15人先のメンバーがいるわけです。そんなメンバーの一人ひとりの顔、涙、笑顔、全て皆さんが背負って、常任理事会を構成していただき、宇都宮JCを背負っていただきたいと思います。結びに2014年度常任理事会が、次の理事会のクールに向けて素晴らしい有意義な会議になりますことを、少しだけお手伝いできるようお願い申し上げます。ご挨拶とかえます。宜しくお願いいたします。

## 12. 役員報告

<中島(崇)> こちらは今までの常任理事会、理事会には役員報告というかたちでは入れていない案件です。ご説明さしあげますと、村上理事長の方からですが、役員メンバーからこの一カ月の常任理事会から常任理事会までの間、理事会から理事会までの間に、例えば出向や委員会の動きですとか、こういった依頼をLOMにしていきたい。こういったことをご報告差し上げたいというような案件を、ここの項目の中でお伝えいただければと思います。基本的にどのメンバーでもご報告は構いませんが、時間にかぎりがございますので手短にご報告をしていただくようなかたちで設けさせていただいております。こちらは、例年でいうところの報告依頼事項というふうに思っただけならばと思います。これだけ出向者を多く輩出するLOMになりましたので、メンバーで情報を共有していきたいという意向が理事長のほうでございましたので、関東地区、また金理事におかれましても積極的なご報告を頂ければというふうに思いますのでよろしくお願い申し上げます。一件、業務連絡になります。2014年度におきまして、年間のスケジュールカレンダーをGoogleカレンダーで作成しております。皆様のGmailを私、もしくは橋本事務局長にお伝えいただけますとGoogleカレンダー全ての同期、共有ができます。既に共有をさせていただいている方もいらっしゃると思いますが、LOM、ブロック、関東地区、日本JCのスケジュール等々すべてのスケジュールがその中に入っております。もちろん変更があった場合には逐一、大きな変更に関してはすべて報告をさせていただきます。このGmailのGoogleカレンダーを使うことによって、非常にスケジュールの管理も有用性が高くなると思われまします。是非Gmailアドレスをお持ちの方は、橋本事務局長のほうにご連絡ください。まだお持ちでない方は、事務方のほうで、作り方に関しましてもご案内させていただきますので、ご作成いただきますよう宜しくお願いいたします。

## 13. 協議事項

協一〇一 2014年度 理事長所信(案)について

<中島(崇)> こちらは通常であれば協議事項ではなく、読み合わせと記載させていただいておりますが、協議事項1番項から協議事項の8番項に関しては11月の総会案件の内容となっておりますので、今クールにおきましては協議事項の中に入れさせていただきます。理事長所信に関しては毎回の通りで読み合わせを行います。  
※文章の読み間違いや、文章を飛ばした場合は中島専務より校正あり。

冒頭	<中島(崇)>
【はじめに】	<廣田>
【世界とのつながり】	<羽石>
【JCは学び舎である】	<金>
【市民が主役のまちへ】	<林>
【市民意識の変革】	<飯沼>
【共助の精神】	<飯塚>
【真の「公」をめざすために】	<土谷>
【市民の信頼と社会の負託に応え得る組織】	<高松>
【未来への希望】	<橋本>
【結びに】	<橋本>

※上記を熟読。

<中島(崇)> 皆様にはご協力をいただいておりますので、事業計画のところもご理解をいただいていると思います。協議事項ではございますが、協議というかたちではなく、理事長の所信をしっかりと心に受けとめていただくようご協力いただければと思います。以上で、協議事項1番項を締めさせていただきます。理事長、コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 特段ございません。

#### 協一〇二 2014年度 基本計画（案）

<中島(崇)> こちらは前回申し上げさせていただきましたとおり、基本理念、スローガン、基本方針の3項目でございます。基本理念に関しては理事長にて作成いただきました。『最良の変化をもたらす、市民による市民のための運動』そしてスローガンは金常任が作成しましたスローガンでございます。素晴らしいスローガンをありがとうございます。理事長より来年1月6日の理事会、臨時理事会、新年会のいずれかの際に表彰を行いますので宜しく願いいたします。基本方針は各グループの方針でございまして、みなさまには何度もご確認、ご理解をいただいていると思います。理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 特段ございません。

#### 協一〇三 2014年度 総会・例会・事業担当（案）

<中島(崇)> こちらは主なスケジュールで、前回からの変更点になりますが、きれいに見

やすくしているところと、スケジュール等々で若干日程の変更があるところがあります。こちらのほうを総会の資料に掲載させていただきます。尚、事業担当と事業の分類、共益、公益というところに関しては、変更は基本的にありませんが、事業の実施日時というのは、一応こちらの日時を目処としてもちろん計画をしていただきたいのですが、前回も申し上げたとおり、講師、会場等々の問題で日程等々の変更が起こりうる場合に関しては、理事会での承認をもち、日程の変更とさせていただきたいと思いますが、現状に関しては、こちらの日程を進めるということで、常任理事会のコンセンサス取らせていただきたいと思います。尚、日時に関してまだ未確定のものは、空欄とさせていただいております。こちらに関しては、わかり次第随時ご案内をさせていただきますと思います。

<福田(治)> 今までは報告のところにあったかと思いますが、協議で得た日程、報告にある日程のその差を常任理事会構成メンバーには理解していただきたい。報告にある日程はただの押し付けですけど、協議をした日程というのは皆さんが同意をした日程です。同意をしたということは、常任理事会構成メンバーとして実施されるものに対し、合意したメンバーを連れてくる義務と使命というものがかかってまいりますので、そのところだけご理解をいただくようお願いいたします。

#### 協一〇四 2014年度 2014年度 諸会議要項(案)について

<中島(崇)> 以前お配りしている資料との変更点は特段ございません。諸会議の2014年度の要項となっております。正副理事長会議、常任理事会、理事会、そして会議における特記事項というか、詳細の事項でございます。最後に提出先の電子メールアドレスということで、フォーマットの確認もさせていただいております。理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 一番下の理事会のところに、議案提出は原則として、常任理事会の協議を得たものとありますが、このプロセスはJ Cが強く思っているところであります。議事録の署名人の話になりますが、改めて皆さんの中でも、常任理事会の協議で得たものでないと、理事会に挙げられない案というのを残す会議資料に、署名がなくていいかということですが、つじつまが合わなくなる部分があるので、そういうところを突き詰めていくのもJ Cだと思いますので、皆さんの中でしっかりと噛み砕きながら、いろんな角度から検証し、本諸会議要項という課題を落とし込みいただければと思います。

#### 協一〇五 2014年度 定款変更(案)について

<中島(崇)> こちらは原稿のものと改正案のもの、総会資料に掲載するもので、総会の決議が必要な定款変更でございます。こちらの詳しい説明を廣田議長お願いいたします。

<廣田> 14年度定款変更の内容として、公益事業、その他事業を全て宇都宮市内、およびその周辺で行うというふうにとらえかねない内容となっております。それを公益事業のみ変更をかけさせていただいております。その中で災害対策事業が公益事業として我々の団体が認定を受けております。こちらの災害

対策事業は、主は宇都宮で行いますが、他県にて災害が起こった際には駆けつける場合もありますので、こちらの災害事業だけ少し外した文面に修正をしております。これにより日本J C、その他のL O Mの方々との交流は、その他事業にて行いますので、定款上何の問題もなく事業計画書を作成していただければと思います。また、こちらの定款は2014年の1月1日から実施となります。

<中島(崇)> 総会での決議が必要な定款変更でございますので、まず常任理事会でのしっかりとした協議をとりたいと思います。根本的には、先ほどご説明がありました通り、来年行います事業にかかわってくるところであり、しっかりとした公益社団法人として、定款に則った事業を行う下地を作るための変更でございますのでご理解の程、宜しく願いいたします。理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 変えるのであれば、皆さんに災害対策事業の範囲などを理解してもらわないと困るだろうし、また、災害対策事業と災害支援事業では変わってくると思うので、廣田議長にしっかりと落とし込んでいただきたい。それと一番下から5行目の(2)、これは前回の臨時理事会で改行してくださいと太城専務からご指摘いただいていると思いますので、直してから上程するようお願いいたします。

#### 協一〇六 2014年度 諸規定変更(案)について

<中島(崇)> こちらは協議事項の『7番項収支予算計画(案)について』にリンクし、諸規定変さらに関わってきますので、運営規定以下のところから、会員資格規定のところから、協議をさせていただきたいと思います。こちらに関しては、本年度から次年度へ変わるところでの第7条です。会議および委員会のところの文言、正会員の所属に関する文言、そして理事長、副理事長、専務理事に関する文言、こちらに関して委員会ではなく会議が増えているのでそういうかたちをとらせていただいております。続いて第8条に関して、基本的には法令会計財政審査委員会という現行のものから、法令会計審査会議というところでの名称変更がございました。こちらの諸規定変更なのですが、申しわけございません。第8条の委員会の任務でございますが、法令会計審査会議のみしか変更がかかっておりません。全ての委員会がこのあとに記載されるようなかたちになります。継続というものに関しても、すべてこのあとに継走されるものでございますが、そこが途中で途切れてしまっています。資料として検討ができないというものになりますが、こちらは廣田議長補足できますでしょうか。

<廣田> 諸規定の運営規定の変更になりますが、資料が1枚しか添付されておらず申しわけありません。内容は今まで次年度理事会承認理事会で、報告が挙がっていたグループ構成。今回も報告にあります、こちらの内容に変更していると思います。

<中島(崇)> こちらに関しまして、2013年度総務委員長でございますが、2014年度の事務方としてのミスなので、必ず修正をするようお願いいたします。会員資格規定の変更に関しては、次の協議事項の収支予算計画のところについてまいりますので、運営規定に関しましてのご協議をいただきたいと思いま

す。こちらに関しては、資料に不備がございますので、大変誠に申しわけありませんが、法令会計審査会議の改正案の後には、グループ構成で続くところの委員会、例年で言いますと委員会概要のところ記載されてくるかたちになります。

<中島(崇)> 運営規定の第8条以下のところをご確認いただきまして、こちら先程の定款変更と同じように、2014年1月1日より施行するというかたちになっております。

<金> 宮まつり委員会の③番ですが、宮まつりを通してのってところが、おそらく第39回ふるさと宮まつりを通してのっていうふうに変更をもらった案だと思いますが、第39回ふるさとを付けるのが正しいのかと思うのですが。

<中島(崇)> そのように修正させていただきます。会員資格規定に関しては次の収支予算計画(案)のところでお話をさせていただきます。理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 特段ございません。

#### 協一〇七 2014年度 収支予算計画(案)について

<中島(崇)> 大きな変更点を廣田議長よりご説明お願いいたします。

<廣田> 大きく変更されているところは入会金収入です。本年度まで3万円で行っていたところが1万円となっております。支出の管理は大きな変更はございません。事業費は公益事業の予算が今年度よりも多くなっております。

<中島(崇)> こちらに関しては先程の協議事項6番と連動したところでの会員資格規定で補足しますが、大きな変更点として例年入会金3万円というところを1万円とさせていただいております。こちらに関しましては、村上理事長のお考えでもあり、入会金3万円を何に使うのかということから入りました。入会認証一式にかかる費用が入会金の中から支払われていきますが、それ以外何処に使われているのかということ、基本的には事業費、管理費の補填にされています。そこで入会金は、そもそも年会費と何が違うのかということから議論を進めていきました。その中で公益社団法人として、入会金の残りのお金を何に使うのかといった時に説明が出来ない。説明ができないお金を取るのはどうなのかといったところから、3万円から1万円という金額に下げさせていただいております。なぜ1万円なのかということですが、入会認証の資金セットに加え、事務的な入会にあたって掛かる費用というものを計上し、1万円が妥当な線だろうという事で設定させていただきました。根本的な考え方は、やはり公益社団法人という組織体として、厳正な組織運営を行ううえで、お金の用途がクリアにできないお金は取るべきではないという考え方から入っております。また、この入会金は、新たに入るビジターの皆さん、会員の方々からお支払いをいただくお金でございますが、一時的なものかもしれませんが、入会金3万円が1万円になることで、理事長の所信の中で、『革新的な手法』というフレーズも出てまいります。その検証をするという意味でも、このトライ自体は悪くないのではないかとこの



ろを、正副理事長一同で協議をさせていただいた結果でございます。予算上30名という形で現状は計上させていただいておりますので、差額としては例年より60万、30名の場合で60万のマイナスが残ります。こちらに関しては、この60万を補填するわけではございませんが、管理費の部分で例年とは違った削減をするなど、そういった取り組みを行えば、十分にLOMの財政基盤として補填できる額であるというところの確認は、させていただきました。この件に関してはお金の問題であり、かなりデリケートな部分だと思っておりますので、皆様のご意見をいただき、正副一同しっかりと協議をさせていただきます。

<金> 60万円減るが、十分にLOMの財務体制でやっていけるといっていましたが、具体的にどういったところを削減していくのですか。

<中島(崇)> 2番項事業活動支出のところをみると、まず投資予算額の前年度補正予算額の差額が3行目に出ていますが、事業費支出が2,261,400円の削減、次の管理支出に関しても総計2,721,000円の削減というかたちを取っております。主な具体的政策としては、たとえば委員会活動費や理事会費、例年の小ホールを使うのではなく、次年度に関してはバンケットルームを使うことで削減をしております。あとは、渉外費支出これはもちろんなかなか読めない面もかなりありますが、現状の段階では昨年より減らしている状況でございます。但し、関東地区に対し、最大のコミットをしていかななくてはならないということも含め、関東地区大会の登録料に関しては、全登というかたちで計上させていただいております。

<金> 2013年度の状態と比べ大丈夫だという話ですか。

<中島(崇)> そうです。

<金> 来年下げてまた再来年上げるということはやりにくいと思うのですが、そういった中で、2013年度だけを基準として考えていいものなのかということですね。たとえば2012年度、2011年度と振り返ってみた時に、やはり2013年度ともちろん予算の使い方は違うと思います。それが2014年度、2015年度、2016年度と先を考えた時に、ここで60万のマイナスを、そういった削減の中で、本当に吸い込んだものでいけるのか、2013年度との比較だけでいいのか検討しなくてはいけないと思うのです。

<中島(崇)> 単年度の組織とはいえ、恒久的に続いていく組織でございます。その辺はもちろん考慮しなくてはならないと思っております。ですが、やはり一応正副での決議としましては、新しいことへの挑戦も含め、あたっていきたいという、想いが出てきてしまうかもしれません。それをお金と天秤にかけてしまっていいのかという反対意見もあるかもしれませんが、そういう考え方のもと、やらせていただいております。前年実績に縛られるのも、逆にいえば単年度として間違っているのではないかという考え方も難くないということです。

<高松> 意見ですが、この組織は毎年続いていく組織です。先程お話しがあったとおり、デリケートなところを変えるのはどうなのかなと思います。その1万円の説明がつかないということであれば、実際に拡大の方が入会するにあたって必要な経費というのは1万円かかっていません。6千ぐらいだと思います。

それにプラス経費がかかって1万円ということだと思うのですが、だったらじゃあ実費なんじゃないのっていう話になるかと思います。1万円という結論がそもそもおかしいのではないかと思います。これから全国大会の事もありお金がかかると思うのです。様々な方がいろんなところで今活躍しているかと思いますが、そういう人たちへの支援も、あるものがないとできないと思うのです。綺麗事ではなく、ない袖は振れないというのが現状だと思います。今までもそうゆう方々が、非常に苦勞をしてきていると思います。チャレンジするところが間違っているのではないかと思うのです。この1万円というお話を聞いて、拡大を担当された方に、仮に2万円がると拡大に対してのアドバンテージはあるのか聞いてみたところ、基本的にないというような見解のコメントをいただきました。全員に確認したわけではないので、何人かいるかもしれませんが、革新的な手法で、過去に縛られないという意見もあるかも知れませんが、いままでやってきた積み重ねのうえに太城議長は存在していると思うので、そこは間違っていないと思います。下げたから云々というのは違うのかなと思います。今年1度下げると、おそらく、再来年、またその先に、やはりお金が足りないので上げようとする、先輩の時は1万だったのに何で俺の時は2万なのか、3万なのかの話になるでしょうし、逆にその分、いろんなところを削るとなると、本来やるべき時にやるべきことができなくなってしまうのではないかというところですか。何か指摘をされているとか、そういった事項があるのであれば、やむをえないと思いますが、そういった問題がないのであれば、わざわざ変える必要はないのではないかと思います。

<金> さきほど中島専務の説明にもありました、入会金が3万円というのはおかしいというところですが、3万円を取り何か問題があるのでしょうか。公益社団法人として何か問題が発生するのかどうかというところで、説明がつかないといっておりましたが、3万円を取り、今後会の存続に係わるような諸問題が発生するのかが気になるところです。現状でみて問題が発生しないのであれば、下げる目的を明確にしないと違和感を感じます。

<澤畑> 160人の団体を動かすので、専務がいていた、ただ新しいことをやりたい想いというのはどうなのかと。大した想いじゃないのではないかと。理事長の想いは大切ですが、そこなのですかというところですか。あと理由としては、先程いつてくれたとおりのところがありますが、もちろん若干減らして入会を広げるといふ考えもあるのですが、ただ少し足りない感じがします。大切な事なので、是非ともこの常任理事会構成メンバーで、しっかりと協議をした方がいいのではないかと思います

<羽石> 視点が違うのですが、1月の京都会議の際に関東地区ナイトが行われると思います。会長を排出しておりますので、全登いただくと思うのですが、予算には挙げられないのは承知しておりますが、一般渉外費で何らかのかたちで補填する可能性はあるかもしれないと考えた場合に、2013年度は170万計上しておりますが、2014年度は当初額予定で100万と、70万の減額となっております。最初の1月京都会議の関東地区ナイトで、ある程度の出費が出る可能性がある場合に、一般渉外費というのは、グレーの面もあり、何かの際に使えるお金ではありますので、このあたりについてどのお考えかを教えていただきたいと思います。

<中島(崇)> 関東地区ナイトに関しては、当初計画として登録を入れましたが、基本的に

懇親会なのでそこには入れることはきない。もちろん全登していきたいという意向はありますが、できないというところで、おっしゃったとおりの一般渉外費対応となってくるのかなというところは正直ございます。やはり、一般外費を膨らましていくべきであるというというのは2013年度の動きをみても確かにそのとおりでありますが、こちらに関してはある程度、補正で修正をしたいと思います。関東地区ナイトに関しては、必ず動員をかけますが、基本的にLOMで全てを負担するのか、ということに関しては、もう一度協議をしなければならないというふうに思います。

<高松> 本年度の件で大変恐縮ですが、先日先輩方とお会いする機会がありまして、ミーティングというかたちでやらせていただいたのですが、現行でいうシニアの先輩方の特別会費は1万円なのですが、先輩方ももっと支援をしたいという話をされていまして、なんなら会費を上げてもいいよ、そういった議論をしてみたらどうかとご意見をいただいております。先輩方が卒業をされるときに支払いをしていると思いますが、そちらは確か5万だと思います。それが、その辺はいろんなことに先輩方が使っていただきたいということで、1万5千円上乗せをするという議論を今でているそうなんです。これだけ先輩方が現役のために色々やっていたのに、僕たち後輩が逆にバックspinにみえてしまうのではないかと感じました。補足です。

<林> 次年度理事長の想いとして、広く開かれた市民団体にしていきたいという想いがここに籠もっていると、個人的には感じております。入会金なのでこれから入ってくる会員さんに大きく関わってくることなのですが、入ってくる人間としては、多いより少ないに越したことはありません。安ければ多少拡大のときにも引っ掛かりが少ないお金になるかもしれないという気持ちはあります。高松副議長からありましたバックspinという考え方もあるかと思うのですが、逆に予算の組み方を変えるという意味合いで、たとえば入会金が減る分、そういった支援のお金が増えるので、逆にそういったことを実現できるという考え方もあるのではないかとというふうに思います。

<金> この案件は、明後日の理事会でコンセンサスとるわけですか。デリケートな問題だと思うので、この場で早々に決めるというのは危険なおおがします。常任理事会構成メンバー以外の理事会メンバーは、その場ではじめて説明を受けるわけですが、そこでイエスかノーか決めてくれということ自体が危険だと思います。可能であれば、もっと説明する時間を割いていただきたい。総会に出すのでしょうから時間がないというのもあると思いますが、先程いったとおりの目的でやるのが本当にみえてこないのか、賛成とも反対ともいいにくい部分です。悪いことではなくよいことだと思いますが、そこをもう少しまくやったほうが理解を得られるのではないのかなと思います。わからないから何ともいえないというところが、明後日の理事会でも出てくる気がするので、できればもっと早くお知らせいただきたいかったです。意見です。

<中島(崇)> まず収支予算の提出というか、みなさまにご確認いただくのに際し、現実問題としてこの常任理事会だから問う発言に留めてください。正副の中でも協議をこの件に関しては重ねました。会を運営していくにあたり、正副理事長会議で決めた案件をこの常任理事会でしっかりと議論をし、そこで一度考えていただきたいというのがあります。タイミングが遅くなってしまったことには問題があると思いますが、真摯に提出するまである程度しっかりと正副

のなかでも協議をしたうえで、提出をしなければ失礼であろうとの考えから、ここまで遅くなってしまったという背景があります。金常任のおっしゃったことはそのとおりだと思いますが、これに関しては、組織運営的な側面がございます。やはり総会での審議も事業計画同様、予算に関してもあげなければ次年度が何もスタートできません。私共としてもしっかりと道筋を創っていきたいという想いから、本日の上程をさせていただきました。

<橋本> 質問ですが、3万円を1万円に下げることに対し、それはいったいなぜなのか、根拠は、という質問はよく出ていますが、逆になぜ3万円になったのか、どういう根拠で3万円になったのだろうかという、その根本的なところを、私は入会して丸5年ぐらい経つのですが聞いたことがありません。もし入会金を下げる、下げないという議論をするのであれば、そもそも3万円になった理由が明示された上での比較論になるべきではないかと感じております。

<中島(崇)> こちらに関しては、3万円という入会金の背景を、私のできる範囲内で調べました。正直な結論として、グレーです。私が出た情報としては正直3万円になっている理由、明確な答えはあまり出てこないのが本音のところだと思います。それをいってしまうと、1万円に下げようと上程している人間の言葉じゃないかもしれませんが、触れるなという意味かもしれません。そういった意味では、触れないことが正しいのかという考え方も僕はあると思っています。

<橋本> 何年前から3万円で固定だったのでしょうか。

<中島(崇)> すみません、今ぱっとでてきませんが、3万円より安い時期もありました。

<金> 目的がちょっとわからないのでまずいと思います。理事会以降、ちゃんと説明をしないと、なぜ3万円を1万円に下げることかというところをただ理事長の思いだとか、いま現在がおかしいからといった理由だけではまずいと思います。説明はできれば理事長の口からしっかりとしてもらい、その上で、理事会で審議、コンセンサスをとっていかないとまずいと思います。橋本事務局長からあった背景もみえてこないものもありますし、非常に危険だと思います。意見です。

<中島(崇)> 非常に多くのご意見を頂戴しましてありがとうございます。再度、こちらに関しましては、理事会が今クールのスケジュールとなっておりますので、こちらに関しては、再度、正副理事長会議で協議をさせていただきます。それで答えを出し、理事会のほうで上程をするというかたちをとらせていただきたいと思います。

<福田(治)> 皆さん真摯な協議をいただきまして、誠にありがとうございます。私と村上次年度が全て話を聞いているかといえば、まだ世界大会も終わったばかりなので、聞けていない部分もあります。40何カ国まわっていると、コミュニケーションが取りきれない部分があります。本来であればこういったことに関して、僕の口から代弁できればいいことだと思うので、そこら辺のところを昨日聞いたのですが、特段ございませんというところでしたので、あくまでこれは、13年度の理事長としての立場と、山本直前と二人揃っている場でもありますのでコメントさせていただきたいと思いますが、今日みなさまからご意見いただいたお金の話にはアンタチャブルな部分もあると思います。高松副議長が言っていたとおりに、卒業生が年末に卒業するにあたり、

5万払わないと卒業できない。この組織はそれを値上げするわけです。全国大会を謳った世代だからこそ、日本J Cのシニアクラブ、その入会金と登録のために、LOMに入るお金を減らさずに、出ていく人間を見送る。そういった様々な背景のなか、先輩方から特別会費をあげろといわれていることも事実。それをあげれば予算はまた変わります。そのような中、入会金を下げるといのは、非常に難しいことだと思います。ましてやこれは、僕が議長をやる総会での案件なので、今度の理事会はとりあえず通常の3万円であげてください。そのあとの14年度の総会案件のところ、協議をしていただくようにしたほうがいいと思います。危険だとかそういう意見が出ているものを、申しわけないですが13年度のところでは出せません。ただでさえ、今回はじめてみたといっている常任理事会構成メンバーの人たちがいる中で、もっとこの中の細かいところを見ると、予算というのは今のところだけではいけないはずなのです。関東地区の会長を輩出する年であり、出向者の数も多く、国際の委員長も出る。あちこちでお金のかかる年ですから、実際の予算の中身を理事会のときには精査していただかないと困ります。どれだけの繰り越しがあるかはわかりませんが、それを入れたうえで、下げられるのであれば下げればいいし、難しいというのであれば、次の年から下げられるように14年度で理由と議論の全てを創り上げればいい。今日感じたところなので、常任理事にも直接いいますが、これを正式なコメントとして残してください。

#### 協一〇八 2014年度 事業計画書（案）について

<中島(崇)> こちらに関しては、申しわけございません、全体に反映ができておりませんので、紙資料で配布させていただいております。ラインの各議長委員長の皆様にお作りいただきました。例年の、県提出用のものがございます。廣田議長ご説明お願いいたします。

<廣田> 私の認識不足により、ご依頼が大変遅くなってしまったにもかかわらず、皆さん期日までにしっかりと提出していただきましてありがとうございました。それでは資料のご説明させていただきます。1月から順次記載させていただいております、継続事業のほうは例年にならい記載させていただいております。今回アジェンダに反映できなかった理由としまして、10月の心のふれあい事業、こちらは新規事業でして今までの前例がないため、昨日、県のほうと調整をしましてまいりました。こちらの内容であれば公益として組み取っていただけるという確認が取れましたので、こちらの内容に沿ったかたちでの事業の構築をお願いできればと思います。

<中島(崇)> すでに各ラインの事業計画書を常任理事の皆様にもご確認をいただいているかとは思いますが、最終、県の提出がある資料でございますので、ご確認いただければというふうに思っております。

<朝田> 2月市長例会の時間を19時半ではなく19時に、それと11月まちづくり事業の20時半までとなっているところを21時まで修正をしていただくようお願いいたします。

<中島(崇)> 集計している法令会計のほうでも、各担当委員会のメンバーが、事業計画書の中身をチェックしているかとは思いますが、皆様のほうから再度、朝田副理事長がおっしゃったような細かなところでも何かございましたらご意見

いただきたいと思います。理事長コメントをお願いいたします。

<福田> 特段ございません。

協一〇九 2014年度 事業計画(案)・年間事業フレーム(案)について

<中島(崇)> こちらは、さきほど福田理事長がいましたとおり、県に提出するものではありませんが、みなさまに計画事業に対する想いですとか、手法をしたためているものでございます。前回の理事会で作成者の皆様から読み上げをしていただきましたので、本日は読み上げを行いませんが、一つひとつ委員会ごとにチェックをしていきたいと思っています。

定款第56条第1項に基づき上程 <橋本>

<中島(崇)> それでは、法令会計審査会議(案)でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。

<廣田> 前回、添付した資料が古かったので、今回バージョンを上げて正規のものにしてあります。末尾16行目から18行目の資料、締め of 校正を指摘されたように校正をかけた最新版でございます。

<山本> 最初の1番目の『宇都宮青年会議所』と、その後の『公益社団法人宇都宮青年会議所』を分けている理由は何ですか。

<廣田> 1行目の宇都宮青年会議所という文面ですが、こちらと最後のところの公益社団法人はあえて入れております。我々がガバナンスコンプライアンス会計で、そしてディスクロージャーをなささいという担いがございまして、この最後の公益社団法人という正式名称で重みを持たせたかったという私の想いです。

<山本> 明確にあるのでしたら大丈夫です。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 11行目『定款および諸規定を適切に管理することによって』というのは実際どのように管理するのかということと、それを管理することによってガバナンスが強化されるという部分が、文章的によくわからない。17行目の『社会的に必要とされる事業』これではだめです。ただ綺麗事 of 言葉を並べるのではない。今もし答えられるのであれば答えていただいてもいいですが、答えられますか。

<廣田> 理事会までに精査し、訂正致します。

<福田(治)> 頑張っているのはわかりますが、文章的に繋がりがおかしい部分があります。

- <中島(崇)> 続きまして、総務委員会事業計画（案）でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。
- <橋本> 基本的にはありません。細かい部分の言葉の使い方等で、修正のあったものは直させていただいております。
- <山本> 『まずは』から入って、13行目で『または』を使っているのですが、この接続詞に意味、意図がないのであれば、いらぬのではないかと思います。
- <橋本> 中段の10行に文章の流れをつけていくことから、「まずは」ではじまり、「または」という接続詞を、文章を読みやすくするためにつけました。その意図でございます。なくて差支えがなければ、これは削除してまったく差し支えのない言葉であるかと思います。
- <山本> 事業計画の1と2で、1は『まずは』で、『または』は2で、混合しているわけですが、3は拡大なので全体的に関わってくる。別に統一でないのなら、付いていていいと思います。
- <朝田> 4行目のところで『市民からの信頼を得』とありますが、漢字で終わるってなかなかないと思うので、ふりがなを入れるなどしたほうがいいと思います。
- <橋本> 言語を精査したいと思います。
- <中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。
- <福田(治)> 総務らしいかたちで、作りづらい部分はあるかと思いますが、3行目の沿革な組織とは具体的にどういうところをいっているのか。理事会の厳格な設営、運営とはどういったイメージのものであるのか。それと8行目に議案上程マニュアルを作成し、より精度が高い議案を期日どおりに提出していただきますとありますが。少し聞いた話だと議案上程マニュアルは期日の話だけらしいですね。それは別にマニュアルでも何でもなく決まりです。そのところの書いてあることと、やっていることはどうなのかということと、期日だけの議案上程マニュアルを作成したことが、より精度が高い議案になるのかどうなのかと、実際精度を上げていくのは、正副、常任理事会構成メンバー、それとラインだと思います。実際今まで理事会の中で精度が上がっているとは思えないところを書いてあり、やっていることと、いっていることが合っていないのではというところがあります。事務局やJCLルームの整理整頓。この前本年度の理事会で、関東地区のキャビネットの荷物が座れなかったことがありました。そこを14年度に押し付けるつもりはありませんが、本当に整理整頓をするのであれば、あそこで理事会が出来るテーブルを組めるよう考え、いらぬものはどんどん捨てる。是非とも書いたことはやるようお願いいたします。
- <中島(崇)> 続きまして、渉外委員会事業計画（案）でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。
- <橋本> 前回ご指摘をいただきました、細かい言葉の使い方等々の変更と、理事長所

信の、『市民の、市民による、市民のための運動』ここの点が抜けている部分の修正と、文言等の精査をしました。

<山本> 最初の5段の『相互発展を遂げていかなければなりません』ここまでの3行プラス3番ですが、背景的に別に渉外委員会じゃなくてもよいのではないかと思うのですが、委員会の設置理由は背景的に、全体を捉えて渉外委員会ですとされているところなのではないでしょうか。

<橋本> 渉外委員会の担いというのが、LOM全体のサポートという観点で、全体的なテーマをこの3行に入れております。

<山本> それならば最後の16、17、18行目。2014年度、新妻委員長を始めとする渉外委員会は、こんな渉外委員会を通して宇都宮JCを創っていきます。メンバーに伝えますということがこの3行に書かれていますので、我々も含めたLOM全体のことをいってほしいなと思います主語を明確にしてください、LOMメンバーみんながひとつに想い、創っていきましょう。1段目と3段目の繋がりをもう一度見直していただければと思います。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 3段のほうは山本理事がいったとおりです。11行目、理事長所信にもJCI、日本JCとありますが、JCI、日本JCの諸大会となると、会議があるので、諸大会諸会議ではないかと思うのですが、それを入れない理由はありますか。昨日もそうですが、隣にいる本人を目の前にしていうのもなんですが、山本和紀という男を関東地区のトップに押し上げることにもの凄いい力を注ぎました。その状態で次の年の渉外委員会の言葉に、関東地区協議会の一言すら入らないというのは寂しいものがあるし、昨日も理事長専務以外、正副すらゼロというところにすぐに結びつきます。地区協議会、ブロック協議会は、日本JCの中に含まれるという観点で、それはそれでいいのですが、そういうところも入れるべきではないのかなと思いました。

<中島(崇)> 続きまして、JC運動発信委員会事業計画(案)でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。

<橋本> 前回ご指摘いただきました、言葉の使い方等、中身の精査をさせていただきました。

<山本> 1行目、『しかし』でひっくり返していますが、『黒子に徹する文化がありました』これはプラスのイメージでも実はありますが、『しかし』でひっくり返しているのでマイナスのイメージで書いていますね。理事長所信にも、書いてあるからというところもあるのですが、冒頭のつけからマイナスのイメージでだと委員会メンバーもテンションがあがらない気がしますので、せつかくですから豊崎議長、冒頭の文章見をみたときに、なるべく明るいページが目に入るようにしていただきたいというのがひとつあります。あと8行目に、『会員拡大にもつなげます』とありますがこれでいいのですか。意図として、ここで取って付けたように拡大が出ている様な感じがします。そんな軽いものじゃないだろうという意味です。質問です。



- <橋本> 我々が取り組む全ての事業や担いというのは会員拡大に連動しているものであり、そうゆう観点でつけたもので、気持ちとして決して軽いわけではありません。ただ、文章として、確かにとってつけたように読み取れてしまうので、もう少し表現の方法を精査したいと思います。
- <朝田> 14行目に、『参加するあらゆる運動の検証、報告を行う』と書いてありますが、報告までではなく検証まで行うのですか。
- <橋本> ご指摘のとおりです。報告事業であり、検証までは含まれないと思いますので、削除させていただきます。
- <中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。
- <福田(治)> 1行目のところで黒子に徹する文化とっておりますが、村上理事長はここ数年にない読み易い理事長所信をつくっていると思います。全ての委員会にいえるところなのですが、ぱっと一回読んだだけだとすごく薄く感じるかもしれませんが、読みやすくすごく広がりがあると思うのです。黒子に徹する文化は確かにありましたがここ数年はありません。それをわかったうえで、次年度は書き示しているわけです。『黒子に徹する文化がありました』というのは今でも黒子です。『長らく青年会議所では黒子に徹する文化がありました』というのと、黒子に徹する文化の伝わる部分が違う。そのこのところをちゃんと掻い摘んだうえで、理事長所信を引用させていただかないと、さきほどのようにマイナスから入る話になってしまうので、ここは使い方を考えていただきたい。具体的にPR映像による地域やメディアの積極的なアプローチというのは、PR映像を配るのですか。
- <橋本> 各例会事業の際に、事業開始前の会場に皆さんがいらっしゃる時に、映像を流すかたちでご覧いただくかと思っております。
- <福田(治)> この前もやっていたものは積極的なアプローチではない。その辺どういうことなのかなと思います。あと7行目ですが、『同世代の青年層にも』とありますが、山本直前がおっしゃったとおり、こんなことで会員拡大には繋がりません。取ってつけたような感があり、会員拡大という言葉を重ねて受けておめしているのであれば使ってほしくないし、軽く受けとめているのであれば、事務局長からきつく指導してください。軽々しくPR映像ぐらいで入ってこないですから。それと8行目からのホームページの受信環境の整備。これはどういうことですか。今と何が違うのか。また、具体的にどういうふうな手法を考えているのか。答えられなければ書く意味もないので書かなくていいです。閲覧環境の利便性。これはスマホサイトを作るとかそういう話ですか。答えられないだろうから持ち帰ってください。10行目の賛助企業の拡大を通して。1社もないのに拡大ですか。開発ですよ。39行目、拡大じゃない。まずは開発をする年ですよ。全然意味合いが違う。そこからの流れは12行目からの流れですよ。下の事業計画1から8に書いてあることを、繋げて並べているだけのような気がします。文章的にはもう少し繋げ方があると思うので。そこからして全部。ゼロベースとはいっていませんが。
- <中島(崇)> 続きまして、宮まつり委員会事業計画(案)でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。

- <金> 冒頭のいい回し等、言葉を指摘された部分を修正しています。内容に関しては、変更はございません。
- <小瀧> 10行目のJ C運動の最大化とは何の最大化を図るのか。J C運動の効果と可能性とか、J C運動の最大化というのがよくわかりません。
- <金> 読みなおして、付け加えさせていただきます。
- <山本> 6行目、『市民意識の高揚と郷土文化向上のために』これが宮まつりの目的で書かれていると思いますが、『39回ふるさと宮まつりの企画と実施をし』これが手法。その結果市民相互の交流が図れる。これ、目的と合っていますか。もう一度整理していただきたいと思います。趣意書みていただけたらと思います。最後の3段に『宮まつりの実施と食育事業に参画することで、市民の関心を高揚させ、意識を行動に変え、市民主導型社会を創造します』と書いてありますが、参画するのはJ Cですよ、参画することで創造していくのかということですよ。主語をしっかりと、誰とJ Cなのか、J Cと市民なのか、ここをもう一度考えていただいて、2014年度宮まつり委員会がこのように、宮まつり、食育事業を通じ、こういう宇都宮を鈴木委員長は創りたいのだということを書いてください。全体的に5段と3段が。こうなってしまうと、文章を書き直さなくてはならないと思いますので、もう一度見直していただけたらと思います。
- <中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。
- <福田(治)> かぶる部分もあるかもしれませんが、2行目の『生活環境は豊かになりましたが』の『が』はいらない。急速な経済発展が社会に対して無頓着、無関心になっている市民を生んでいるのかという理論になると思うのです。こういう文章の書き方はすごく短くまとめないといけない。特に始まりのところですし、もっとデリケートに作り上げるべき。最初の3行目も書き方が雑な感じがします。それと39回ふるさと宮まつりは古いとはいえませんが、伝統に関しては、僕は宮まつり委員長の経験がないのでわかりませんが、表現の『古い』はまず間違い。『歴史と伝統に溢れる』伝統がどの程度あるのかそこは適切な言葉に変えてください。最後17行目、直前がおっしゃったところですが、言葉として、『市民の関心を高揚させる』というのはおかしいような気がします。関心を高揚させても仕方がない。全体的に文章の作りを精査してください。市民の関心を高揚するだけでは市民と地域社会に繋がらないし、ここのところを上手にやっていただければと思います。
- <中島(崇)> 続きまして、地域交流委員会事業計画(案)でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。
- <金> いい回しを指摘されましたので、いい回しの変更をしております。大きな変更、変化はございません。
- <朝田> 4行目に『時代に即した国際関係の構築のため』と書いてありますが、今まで時代に即していないかのように感じるので、修正されたほうがよいのではないかと思います。

<山本> 6行目『どのような支援をすべきか決定します』これありますか。決定しますではダメですよ。ここまで行くのにいろんな経緯があつての決定というかたちになると思うので、情報収集しますで、よいかと思います。どのような支援をするのかわからないのも事実ですが、いい方を考えていただきたいと思います。朝田副理事長がいった時代に即したというところが13行、14行あたりに書かれていると思うのですが、この二つです。東北支援と姉妹JCのところが若干気になります。12行目の『そして、互いのLOMメンバーの意識や感性を』というところや、さらにその前など、いいっぱなしは嫌だし、みんな一生懸命作っているのは知っていますので、これは後で文言を見直します。それと『姉妹JC（ホノルルチャイニーズJC）』とありますが、姉妹JCは他にはなく、文字稼ぎのような気がするので、入れなくてもいいと思います。もし意見をひっくり返すようでしたらこのままでも構いません。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 朝田副理事長がいったとおおり、『時代に即した国際関係』は、前回は指摘を受けていたと思いますが、国際関係という言葉は、シスターJCで関係が成立しているので、使わないほうがいいと思います。そのあとの4行目の『国境を越えた』ここもあたりまえなのでいりません。12行目『災害発生時における迅速かつ的確な対応をします。栃木ブロックのRNTなどその辺のところを委員長から確認してもらいたいのと、実際、災害発生時における迅速かつ的確な対応というのは、僕らも東日本の話では、いたのでわかると思いますが、情報をまずは集めることから始めないといけけないので、あの時の東日本大震災での教訓を生かし、的確な対応をしますと書いているのだから、その辺を突っ込まれた時の説明ができないと、軽々しく書かないでという話になってしまうと思うので、本当にその時のことを思いだしながら、迅速かつ的確な対応とはなんだというところを、金常任から委員長のほうに問いただしていただきたい。それと、そのあとの12行目の「そして」と「さらに」、この辺のつなぎ方を何処に繋げるかがわからないで書いているので、12、13、14行目は、まるっきり書き直したほうがいいと思います。ホノルルの地においてと書いてありますが、行くだけでは交流、相互理解ではないので、そこも限定しないほうがいいと思います。お互い相互理解をするためには来てもらうこともあるわけです。その辺は、そのようにしていただいたほうがいいと思います。

<金> ホノルルの地においてを削除ですか、そこを限定しないということですか。

<福田(治)> 限定しないほうがいいです。17、18行目の姉妹JCとの交流により、国際的視野を広め、相互理解を推進し、地域における、JC運動の最大化に繋がるとは思えませんので。

<金> 沢山あつて混乱しております。

<中島(崇)> 続きまして、政策委員会の事業計画(案)でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。

<林> 内容のほうで、文章が長すぎて、本来の意味で通じづらいというようなところがいくつかありましたので、句読点等々見直し、より見やすく意図が通じやすいように変更しております。

<福田(治)> 直前と僕からの意見は、正副大丈夫でしょうか。ちゃんとメモしてください。

<山本> 一転、一転して初回に戻ったみたいなのはないですか。それが一番心配です。今まで指導してきたのがゼロになる。全ての会議に出てないでしていうのもすごく心苦しいところですが。

<中島(崇)> 大丈夫です。よろしく願いいたします。

<山本> これ非常によく書けているとすごく思います。であるがゆえに申し上げます。まず、最初の5段目『当事者意識をもって行動する社会をつくらなければなりません』というのであれば、どれが具体的な12段のこれにあたるのか。委員会の設置理由は、『行政との連携を図るための事業の実施』と、もう一つは『市民意識向上を図るまちづくりの事業の実施』この二つと会員拡大です。この二つが最初の設置背景の理由のところ、少しぼやけていますが出てきている。これを明確に出してほしいなと思うのです。この二つのことが当事者意識を持って行動する社会を作るために、政策委員会は何をするのか。市長例会、市長を囲む会を聞くにあたっては、市民が主語となっています。そうすると、市長を囲む会に市民は入れるのか、これは僕らが聞くわけですが。この目的を、もう一度考えていただきたいと思います。そしてもう一つが市民意識の向上を図るまちづくりです。11行目辺りの『当事者意識を持って行動する場として、まちづくりをテーマにしたフォーラムを開催します』とあります。このフォーラム開催の目的があたりまえとありますが、JCとして、具体的にどんな実現のためにというところですが。例えば、お年寄りとか子どもが明るく暮らせるまちをつくるためにとか。子育て世代が明るく暮らせるためにとか。そこをターゲットに絞らず、ぼやかしているのはわかるのですが、目的がぼやけすぎているので、もう少し具体的にお願いします。最後に16行目の結びのところになりますが、これは最初の5段。委員会の設置理由が上手に書かれているがゆえに、もったいないです。『市民のための社会の構築を実現します』とありますが、これ非常にすごいことをいっていますが、逆にこれ大きくてJCでできるのか、というところがあります。僕はすごくいいと思いますが、いいと思うからこそ、この主語と中の部分ですが、非常に中島委員長の真面目さがでていた部分ですから、12行目の具体的な1行から、最後もうひと捻りして、2014年度政策委員会が発信する運動として宇都宮市民のみなさんの意識が、これくらいまで変わるというところを、もう少し具体的に書いていただけたらと思います。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 始まりの部分に『市民協働型社会に移行しています』とありますが、理事長所信で移行していますといっているところを、またそのような社会を作るといっているということは、所信を否定しているのです。移行しているのであれば、それを推進するとか、さらに推し進めるためにはと始まらないとだめです。6行目、『市民がより幸せに暮らせるまちづくりの取り組みを起すために』何かおかしい。同じ6行目の最後、『行政が目標としている将来像を理解する場として、宇都宮市長から直接講和をいただきます』とあり

ますが、行政が目標としている将来像をまだ理解していないのかと、宇都宮市の第何次創造計画とかをみればわかるし、その他の細かいところも全部、いろんな資料が公開されていますので、最低限そのくらいは勉強していれば、違うのではないかなと。将来像を理解する場として、市長を呼ぶのではない。市長例会を囲む会のことを書いていたいただいているのだと思います。我々の偉大な先輩であります。その市長を呼んでいるときの、市長を囲む会の文章ではないと思います。それと10行目、『行政と市民との情報共有』とここから出てくるのもおかしい。行政と市民の情報共有とは具体的にどうゆうことですか。ここまで市長を囲む会の話がでて、行政と市民との情報共有に取り組みますといっていますがマスコミにでもなるのですか。山本直前がおっしゃっていた通り、方向性は非常にいいので、もっと精度をあげるよう全体的に練り直しをしてください。

<中島(崇)> 続きまして、青少年育成委員会事業計画(案)でございます。前回からの修正点、変更点はございますか。

<林> わんぱく相撲全国大会に参加しますという表現だったのですが、表現がおかしいとのご指摘をいただきましたので修正しました。あとはダンスの取り次ぐ目的というところで、少し文章を精査し、直しました。

<木村> 6行目に『スポーツやボランティア活動などの機会を創出し』とありますが、どうゆうことでしょうか。

<林> 次年度は、多くの市民を巻き込むという考えがありますので、わんぱく相撲におきましても、広くボランティアを募る。そういったことをできないか検討しております。

<山本> 最初の5段で書かれている2行目ですね、人間が必要不可欠です。この人間は大人も入っているのですか。質問です。

<林> 大人も含まれております。

<山本> そうすると具体的に大人の教育、育成的なところが実は書かれていない。青少年育成委員会なのだから、青少年を育成しながら大人も成長していくというところに本当は繋がるのです。わんぱく相撲を応援してくれる大人への指導をしてくれる大人もいるわけで、そういった意味で書いているのか、委員長の想いというものをもう一度確認していただけたらなと思います。

12、13行目のストリートダンス選手権。13行目でストリートダンス選手権を開催します。これは体を使って自己表現をするなんたらと書いてありますが、ストリートダンス選手権をやる目的というのはなんでしょう。小中学校の学習指導要項に取り組みされているからなのか。目的が明確にあると思います。今年度で3回目になりますので、どのような目的でやっているのかを記載していただければと思います。最後の3段目ですが、もう少し相馬委員長のカラーを出してもいいかなと思います。もっとみんなで仲よくやろうよ、自分が青少年育成のシンボルなんだみたいな。それが委員長ですから。所信をすごく大事にし、単語をたくさん使っているのはわかりますが、これでは少し堅いといえますか、もうひと捻り委員長のカラーを出してもらってもいいのではないかと思います。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 2行目3行目の、『この地域社会を創り、つなげてきた先人たちの想い』これをしっかりと理解し、応えられますか。直前もご指摘したとおり、4行目のところにいきなりそれが出てくるのはおかしいです。それと11行目、勝ち負けではなく、心の豊かさを持つことができるような機会を提供します。とありますが、わんぱく相撲は心の豊かさだけを求めているではありませんので、そこは考えていただきたいと思います。直前も指摘していましたが、『地域に対する意識を変えることができます』ここは、直前と逆の理論です。それと第4回ストリートダンス選手権はタイトルの最初に宇都宮と入れなくていいのですか。

<林> 入ります。修正いたします。

<福田> 宇都宮ストリートダンス選手権を開催することにより、地域に対する意識を変えることができる。これだと、参加しているのはこどもなので、ちょっととび過ぎかと思います。仲間との協調性を学ぶことで、地域に対する意識を変えることができますというのも飛躍しすぎじゃないかと、もう少し表現を抑えたほうがのよいと思います。最後の17行目のところに、地域らしさを再確認とありますが、地域らしさというのを答えられるかどうか、わざわざ投げかけるかたちで今日はやっていますが、そこまでしてもらわないとやる意味もないし、どうせやるのなら、やるべきことを明確にするよう投げかけてみてください。

<中島(崇)> 続きまして、全国大会招致会議事業計画(案)でございますが、前回からの修正点、変更点はございますか。

<羽石> 変更点は、最初の5行のいい回しをご指摘いただきましたので、そちらを修正しました。ならびに全国大会招致という名のごとくその目的を明確にさせていただきました。変更点の2つ目としましては、最後の3行のところにおきまして、この全国大会招致における成果というものを、理事長所信を参考にし、自分自身で踏まえ、一般的に書き直しをしました。

<山本> 7行目、団結力の向上に続き、会議資質の向上。こちらはこういったところを具体的に考えているのか、また、委員会の設置理由の中では、メンバーの意識をどのように高揚させるのか。具体的イメージがなければ、一言、二言付け足して、読んだ時にそうだな、やりたいな参加しなきゃなと思えるようなことを入れていただけたらと思います。それと最後のところですが、端的に羽石議長の想いといいますか、内面的なものを最後のところにもう少し出してもいいのかと思うのですが、究極の形というこの単語を使うのは非常に気になるし、わくわくすると思う単語でもあるのですが、団結力というのを謳うのであれば、非科学的な文ではなく、もう少し曲線的な丸っこい文章を書いてもいいと思います。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 羽石議長のところは非常に大きなポイントとなるところだと思いますし、こ

ここで案と書かれたことがずっと引き継がれていくと思います。持ち場的に仕方がないと思いますが、大きくかかわる人材の一人、恰好の人物が作成しているというふうに思います。たとえば、あなたがいる間に大会ができるかもしれない。中止になったとしても、やり終わった後に読んで、全然違っていたねとならない文章にしてもらいたいというところがまずはあります。細かいところはいいませんが、9、10行目で過去の大会を主管した会員会議所とありますが、実際に行ってきたことに対する検証というのは、具体的に何か考えてらっしゃるのですか。

<羽石>           こちらについては、誘致をするために準備してきたこと、並びにその誘致に手を挙げてから何をしてきたのかを色々と調べてみたいと思っております。先日、埼玉中央JCの対話集会をみさせていただき宇都宮もレギュラーでやるということで送っていますので、実際、埼玉中央JCでは対話集会ができるのかというところは、正直できないのかなと思いましたが、そのことをまず、私自身あそこにはじめて気づきました。それをどのように前年版につかえていいのかということ踏まえ、考えた際に、手を挙げてから具体的に、取れるまで何をやってきたのか、まずは対話集会だけではないですが、様々な諸大会でPRをしたいというのがありますし、当時の理事長が取った時、取る前はどのようにつないできたのかを知りたいなというのがあり、書かせていただきました。

<中島(崇)>       理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)>       検証といってもこれは、自分ちのLOMではないので、まず宇都宮のその歴史も検証してもらわないといけないし、それを踏まえたうえでの、関東地区の話で検証ということなんだと思いますが、ちょっと上からいっているような感もあるので、表現やいい回しえを考えたほうがいい。作成して後々まで引き継がれる文章だと思うので、このようにして作成していただければと思います。

<中島(崇)>       続きまして、会員拡大グループ事業計画(案)でございますが、前回からの修正点、変更点はございますか。

<高松>           2行目と11行目が変更となっております。

<朝田>           4行目に革新的な手法を確立しとありますが、少しでもそれに当てはまるようなことが感じられないのですが、書いてあることは、今年やられた内容のことが書いてあるように感じるのですが、何か持ち合わせているもの、浮かんでいるものはありますか。

<高松>           よく聞こえませんでした。10行目から11行目ぐらいですか。

<朝田>           下の12段の部分に革新的な手法を確立しとありますが、このところに革新的な手法がよく見受けられない。本年度事業としてやってきているものが書かれているように感じるのですが。

<高松>           手法を申し上げればよろしいのでしょうか。

- <朝田> これからこういうことをやるとか、委員会で突詰めるとか、どんなことをしてこの手法を考えだそうとしているのかがみえてこなかったのが、質問です。
- <高松> 現状でいくとまだ委員会を開催していないので、委員会として決定した事項ではありません。アバウトな内容でよろしければ、ないことはないのですが、それをここで発表してよいのか、悪いのかというところです。議長と我々スタッフが話し合った内容でよいのであればお伝えさせていただきます。
- <朝田> 他の委員会でも会議ができていないところはあると思いますが、ある程度のところは、多分、聞かれていることは一緒だと思います。方向性が見えてこない。
- <高松> まだ具体的にやっておりませんが、革新的な手法ということなので、経営者ではない人を正副に勧誘をしようと思います。皆様の会社に行くかもしれません。その節は快くお話を聞いていただきたいと思います。
- <木村> 事業計画に書く必要ありますか。革新的な手法、確立まで。
- <福田(治)> 書いたらやらないといけない。みえてないなら書くべきではない。
- <朝田> 私が聞きたかったのはどういうことをやるかということではなく、どういう方向性をみているのかを聞きたかったのが、質問させていただきました。
- <木村> 革新的な手法の部分に関しては、計画に書くと実行しなくてはならないので計画には書かず、これから委員会で協議して行きます。
- <山本> J Cの研修とアカデミー研修を分けている理由というのは何かありますか。同じかと思うのですが。
- <木村> 例えば春に、J Cの先輩にJ Cのことを語ってもらったり、飯沼委員長に今年やっていただいた中小企業診断士としての話をさせていただいたり、そういったことです。
- <山本> J Cの勉強と、J Cに入ったメリットとしての研修会で分けてあるということですね。明確に分けてあるのですしたら大丈夫です。
- <中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。
- <福田(治)> 全体的に理事長所信をリンクしすぎです。いいづらいものもありますが、先程いった革新的な手法というのは、理事長所信で理事長が謳っている以上、それを無視するわけにはいきません。ここに入れて書いても、やらなければ、これだけの時間を使ってやっていることが、無駄になります。この状況で、やるべきことがわかっていること、やらないといけないことを書いていくことが、この720字であるべきだと思います。木村副理事長のほうからも、理事長所信に謳っていることで、まだまだ内容を理解していないことは、まずは理事長とラインでお話をしてください。それからではないとできないことです。拡大委員長を経験したものとしてのコメントは、ここでは差し控えますというのも簡単な話ではない。革新的な手法もそうですし、入会金の件、そういったことは、表面的なところだけでやったら危険なことではかないわ



けですから、そこをまず、話をしてもらい、やるべきことを書き示していただくことが大切なことだと思います。

<中島(崇)> 続きまして最後になりますが、協働連携特別会議事業計画(案)でございますが、前回からの修正点、変更点はございますか。

<篠崎(達)> 拡大について、こちらのほうは表彰されているわけでもなく、決して成功には至っていないというご指摘。また、青臭くという表現がマイナス的なイメージではないかということでしたので、そちらのほうを削除させていただきました。また、全体的にしつこいという意見もいただきましたので、繋ぎ目を綺麗に精査させていただきました。同じく、『日本の有益なプログラム』という言葉が2回使用されていまして、そちらを1回に統一させていただきました。それと、一番肝になってきますのが、『JCI NOTHING BUT NETSキャンペーン』こちらのほう、広範囲に物事を捉えると、私が所信のほうで勘違いしてしまったのですが、実際、学び舎ではなく、人を救うという想いを育むことのできましたので、それに合わせ、広く視野を持っての人材育成ということで表記させていただきました。

<山本> 13行、世界に明日を持たない人、実際にいますしわかりますが、少し過激です。そこを『JCI NOTHING BUT NETSキャンペーン』に取り組むというところに来ていますが、マラリア撲滅の事業として、本当に日本国内に広がってきている事業です。あえて過激な表現を使い危機感を煽っているのは充分わかります。最後の3段は非常にいいです。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 1行目の『全国でも稀に近年20%以上会員拡大しているLOMです』というのはおかしくありませんか。わかりますが、普通に書けばいいと思います。4行目、5行目、理事長所信を引用しているのかなと思うのですが、『一人ひとりが市民の模範となり率先して行動することができるJAYCEEとして青年らしく高みを目指して運動を展開していく』とありますが、間のところはよいのですが、しつこさが取れていません。14行目の『人の尊い命を救うという姿勢を養うと共に』とありますが、ここも同じです。あとこの委員会は、須山理事長と篠崎議長を筆頭とし、皆様が多数いらっしゃると思うので、出向先での立ち振る舞いなどを入れてもいいかもしれません。そこから学び、フィードバックできると思います。通せばいいという方向に考えず、議長と名の付く方が作るそのそれなりであって欲しいと思います。

#### 協一10 2014年度 第109回通常総会(案)について

協議資料に基づき橋本事務局長により上程文読み上げ

<橋本> 1点、審議の4番項。廣田議長のお名前、廣田勝義を廣田義勝と間違っ書いしてしまいました。大変申しわけございませんでした。

<朝田> 1 2 番の本年度の工夫と期待される効果、実際に本年度だけの工夫と効果で今年やっていないものはどれですか。

<橋本> 実際のところは例年と同じように工夫をやっていることかと思います。いろんなことを考えてみたのですが、おそらくここに書いてある4つの項目というのは毎年やっており、一番効果のある効果だと思っておりますので、本年度だけの工夫というわけではございません。継続的工夫として取り入れていきたいというふうに考えております。

<朝田> そうなのであれば、ここに載せるのではなく、事業内容のところなり、手法のところ載せたほうが良いと思います。

<橋本> 訂正させていただきます。

<中島(崇)> 1 1 月 2 9 日の本年度最後の総会に関しても、廣田議長のところで総会の出席率や定刻に間に合うための工夫など、色々とされておりますので、そちらも整然と踏まえたうえ、議案の精度を上げていくかたちで作っていくほうがよろしいかと思っております。

<中島(崇)> 理事長コメントをお願いいたします。

<福田(治)> 1 3 行目の例会での審議、引き継ぎしっかりとやってください。

#### 協一 1 1 2 0 1 4 年度 1 月例会 新春交流会 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき橋本事務局長により上程文読み上げ

<金> 各委員会紹介は、新たな取り組みでよろしいですか。素晴らしくいいと思います。リハーサルはやらないのですか。

<橋本> 本来であれば、リハーサルを行いたいところですが、皆さんに集まっていただくことがお忙しい時期に難しいと思いますので、各委員会の会議帯でやっていただきたいと考えております。その際に常任の皆さま、正副の皆さまにはお手間をかけてしまうのですが、一度リハーサルをみていただけたらと思います。

<金> 来賓の方からすると、非常に注目される場所だと思います。ここをビシッと決められるかどうかが大切なところだと思うので、そのリハーサルを各委員会に任せるのであれば、しっかりとやるようにアナウンスを流さなくてはいけないと思います。それと発表の中身ですが、これは委員長に一任するのか、それとも事前にある程度文書を作り、しっかりと確認をするのか、そこはどのように考えていますか。

<橋本> 各委員会会議帯の発表に関しては、常任と担当の副理事長、専務の方で、あまりにもずれているものはそこで排除できると思います。みなさんが一生懸

命作成した事業計画がありますので、理事長所信、事業計画に沿ったかたちであれば、ある程度自由性があってもよいのではないかと考えております。

<金>                    ということは、事前の確認はとらず、ラインでということですね。全ての委員会である程度統一感を持たせるということは、考えていないということですね。

<橋本>                    そこまでは今のところ考えていませんでした。

<高松>                    各委員会がPRを壇上で行うことは非常にいいことだと思うのですが、今までの傾向からすると、その最中にも挨拶回りをしており、すごく中が賑やかで壇上の声が聞こえない恐れがあります。そんな懸念を重く感じてしまったので、何らかの対策がとれるようであれば、とられた方がいいと思います。

<須山>                    先日、シニアの方とお話をする機会がありまして、新春例会の5千円の会費が安すぎる、1万円でもいいと言われたのですが、その辺はいかがですか。5千円の根拠はないと思うのですが、それを1万円にしても根拠はないと思います。なかなかコメントしづらい部分もあると思いますが、そういう意見をいただきました。

<橋本>                    須山議長ありがとうございます。シニアの皆さまのご意見、本当にありがたい話だと思っております。本当に上げてしまっていていいか、実際正直なところ、例年の流れで変えていないところもありましたので、委員会に持ち帰り聞いてみたいと思います。もちろんお金の絡む話なので、ラインで専務ともども、一度持ち帰らせていただきたいと思います。

<廣田>                    意見と対応の中にある撮影に関してですが、多分口頭での承諾になると思いますので、経済的リスクが考えられます。私のほうでJC運動発信委員会さんのほうにお願いをして、個人の判別ができないようなものに掲載する場合はしていただく方向でお話させていただきたいと思います。もう一点、5千円から1万円の件ですが、公益法人ということなので、多くもらったお金をどのように活用をするのか、私のほうでも少し調べますので、お時間をいただければと思います。

<朝田>                    上程スケジュールのところですが、1番の最後に、第1回臨時理事会となっていますが、これを通すのであれば、2013年度理事会の協議にPRがあるこちらもだすということですか。

<中島(崇)>                2013年度理事会の協議は審議ということですか。

<朝田>                    審議だから、審議するのかなと、そうすると第1回の臨時理事会がないのかなと思ったのですが、逆に第1回臨時理事会まで審議を伸ばしたい本体議案は何のために書いたのかなと。

<橋本>                    私の中でそこまで深く考えておりませんでした。年明け毎回の臨時の方で、2014年度としていただこうと思っていたのですが、2014年度報告協議というかたちであげる必要があるのかなと、ただそれだけ書いておりました。これについては専務と協議させていただきます。

- <金> 歓談中から、各委員会が担当する円卓への配置があり、基本的にここにつき、食事やドリンクから配膳をするということなのですが、例えば対外的にもあるように、各委員会に関係する団体の人や、先輩方に挨拶をしてみたり、それで交流を図っていくと思うのですが、ここから基本的に動いてはいけないのか、それともこれはあくまで目安であって、歓談が始まり必要ないと思えば、どんどん挨拶まわりについていいのかというところをお聞きしたいのですが。
- <橋本> 基本的に目安として、配膳が必要であれば、ホストとしての役割ですからそれは当然やっていただきます。やはりもうひとつは、各会議帯がしっかりと向上を図ることが大きな目的でございますので、例えば委員会全員で動くときがあれば動いてもらって構わないですし、例えばひとりふたり残していただき、その間に行ってあいさつをしてくれるのも構いません。その辺は柔軟に対応してくれればと思います。
- <金> スクリーンには映像を流すと思うのですが、これは会場全体から見えるのですか。
- <橋本> 今年の新春例会であったようなかたちで流しますので、会場全体から見れるようになっておりますので、大丈夫かと思います。
- <廣田> 式次第を受付で配ると書いてありますので、審議対象資料のほうがよろしいのではないかと思います。
- <林> 受付のほうは資料がちゃんと添付されておりますが、来賓の方のお見送りについても、前もって知っておいた方がいいのではないかと思いますので、その辺をご検討お願いできればと思います。
- <福田(治)> 活発な議論がこの議案から続いているように、それだけ皆さん思いがありますので、是非とも委員長にもそのことを伝えいただき、素晴らしい新春交流会にしてください。

協一12 2014年度 1月例会 新春交流会 告知計画並びに予算(案)について

- <羽石> 細かいところですが、前回の理事会の際に、私自身少し話をさせていただいたのですが、受付カードと来賓の名前を統一したほうがいいと思います。内容をみると、会社名、役職となっておりますが、招待者をみると、会社の方は少ないです。本当に細かいところがありますので、そういったところで、ある程度配慮されたほうがいいのかなと思います。
- <羽石> 今回担当というかたちで案内があったかと思います。本年の拡大について革新的な手法という言葉があがっていましたが、これを持っていくにあたり、何か拡大についてのPRは考えていますか。
- <橋本> 本件は拡大に関しての話ですが、11月の正副理事中心でのお話なので、渡す段階で拡大に対して、LOMというのはおそらく働いてくるかと思っておりますので、そこはお任せしているというのが現状でございます。文章の中に拡大に繋げられる文章が入っているかといえば、そこまでの意図はないというの

が現状でございます。

<福田(治)> 部分審議をなくし、告知計画という手法で議案を作成していくというのが2014年度の革新です。はじめての手法なので、いろいろ途中で変わるところがあるかもしれませんが、まずは新春交流会の事務方の議案が見本、手本となっていくしますので、考えられる可能性を詰め込みながら、作成をしていただくようお願いいたします。

#### 協一13 PR映像作成並びに予算(案)について

協議資料に基づき橋本事務局長により上程文読み上げ

<中島(崇)> 上程スケジュール、こちらに関しまして、修正、精査させていただきます。

<金> 絵コンテをみたのですが、このPVで、様々な例会や、外に対しての発信をするわけですが、著作権などは大丈夫でしょうか。

<橋本> 特に所的な、宇都宮市役所や宇都宮商工会議所などの映像を使う分には、問題ありません。それ以外の部分につきましては、今回宇都宮美術館で撮影を行っていますが、これは宇都宮美術館に承諾をいただき撮影をしておりますので、著作権の部分はクリアできると考えております。

<金> 地域の皆さまに理解してもらうための発信、認知してもらうことを対外的な目的につなげているのであれば、この絵コンテの文字を英語ではなく、きちっとした日本語で大きくわかりやすく表記をしたほうが、周知されていくのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

<羽石> 著作権に関することで、資料の著作権の引用における報告書というのがあるのですが、DVDを作るにあたり、DVDの中に音源を入れる場合には、必ず著作権の許諾が必要です。その場合どうゆうことかと、その曲に対しての権利はないと思いますが、著作隣接権というかたちで、何かのCDを使うのであればレコード会社の権利が関わってくると思います。この辺りについてあくまでも会場内で流すだけであれば、状況によっては以前、金常任がやられたような例会であれば、著作隣接権は大丈夫ですが、CD、DVDに入れるのであれば、発生しますし、その辺りについての確認をお願いしたいのと、それについての助成額の限界というのもわからないのであれば確認をお願いできればと思います。

<林> DVDの内容ですが、宇都宮JCの活動理念をPRしていくということで考えると、宇都宮市の紹介の割合が全体的に多いので、もう少し宇都宮JCとしての活動PRを増やしたらどうなのかなというふうに感じました。

<廣田> 公益事業になりますので、対外的目的の部分をもう少し色濃くといいますか、DVDなので書きづらいとは思いますが、公益の視点を入れていただきたいと思います。  
もうひとつ、DVD作成費の20万という予算が組んでありますが、これは

どこからどのように出した金額なのでしょう。

<橋本> 対外目的につきましては、もう一度精査させていただきます。20万円という作成費に関しては、もともと宇都宮のPR事業というものがあまして、2014年度はある程度の費用が掛っても質の高いものを創っていこうという考えがあまして、その中から20万円を割り振りました。

<廣田> であるならば、予算上に案分した相手方の残りのお金があるわけですので、そちらをもう少し反映させていただきたい。

<橋本> グレーゾーンでやろうと思っていたのですが、そもそも宇都宮JCが日本JCに対しても、コンプラで出していたりしますので、廣田議長からご指摘いただきました、背景単色のほうに変更させていただきます。映像のほうは差し替えさせていただきます。

<木村> DVD作成の件ですが、業者は1業者だけですか。20万円かけて来年はいいものを作るといっていますが、1業者だけじゃわからないと思います。

<橋本> 1社でございます。おっしゃるとおり金額が大きいので、委員会内で本当に1社だけでいいか、他の業者にあたるかを協議をしたいと思います。あと、撮影スケジュールがありますので、スケジュールの中でやるということでございます。

<福田(治)> 見られるようになるのはいつですか。

<橋本> 12月の正副のときには映像となっているものを理事長に確認していただけるということで、委員会として実行しているところです。

<福田(治)> 栃木SCさんは抜かしたほうがいいと思います。新春お呼びしていますが、多分、来れないと思いますし、栃木SCさんを載せるのであれば、栃木県内のプロスポーツ全部を載せた方がいいと思います。特にちょっとデリケートだと思いますので、この委員会はこれだけなので、ビシッとやっていただいて、本当にかっこいいものを作り上げてください。

#### 14. 報告依頼事項

##### 報一01 2014年度 スローガン(案)について

<中島(崇)> みなさんからご応募いただきましたスローガンを掲載しております。金常任のスローガンに決定いたしました。

##### 報一02 2014年度 グループ構成(案)について

<中島(崇)> 事業計画に基づくところの委員会概要となっておりますので、各自ご確認お願いいたします。

報一〇三 二〇一四年度 組織図(案) ・ 対外出向者(案)について

<中島(崇)> 10月の2013年度理事会におきまして、赤松栄紀君の理事辞退の件をご承認いただきましたので、特別理事より赤松君がはずれております。委員会への配属ですが、本人の希望により宮まつり委員会へ配属となっております。あと10月理事会認証の拡大委員会の3名ですが、次年度各委員会所属になるということで、希望を聞いたうえ、配属委員会が決定しましたらご報告申しあげます。対外出向者に関しては随時更新しております。理事会までに更新をしてご報告いたします。

報一〇四 二〇一四年度 年間公式スケジュール(案)

<中島(崇)> 随時スケジュールを更新しておりますが、次年度総会掲載案件となります。グーグルカレンダーのご確認と同時にこちらも資料として作りこんでいきますのでご確認お願いいたします。

報一〇五 二〇一四年度 会議・委員会職務分担表(案)について

<中島(崇)> 2人の幹事の職能の分担を含め、職能分担表を作らせていただいております。ご確認ください。

報一〇六 今後のスケジュールについて

- ・ 11月16日 第3回理事予定者会議 ※理事長公務のため、20時30分開始
- ・ 11月17日 ありがとう関東地区。
- ・ 12月10日 第4回常任理事予定者会議。
- ・ 12月24日 第4回理事予定者会議。

15. 監事講評

<澤畑>

みなさん5時間半にわたる常任理事会ほんとうにお疲れ様でした。この常任理事会があたりだったかはずれたのかはちょっとわかりませんが、冒頭会長に楽しいだろうといわれまして、はいと答えてしまいましたので、しょうがないかなということで諦めてください。本日、私ひとりしか監事がいません。公務で欠席という理由が使えない監事の澤畑でございます。

本日の常任理事会でございますが、諸会要項、定款、諸規定の変更、また予算編成等でございますが、こういった面はほんとうに大切な部分です。ここがスタートですからほんとうにじっくりとしっかり考えて、ラインの委員長たちにも説明をしてあげたうえで理事会に望むようにしてほしいと思います。それと事業計画ですが、今回福田直前理事長が村上理事長の代理をやっていたいき、山本会長もほんとうにお忙しいなか出席していただいて、いろんな意見をいついていただけたのは、決して福田直前理事長が皆さんを憎くていつているわけではなく、それだけこの事業計画というものが重要なものだということを再認識してほしいと思います。前回の常任理事会、そして理事会と協議をしていき、それでもまだこれだけ意見がでるということは、やはり今回の常任理事会がこれだけ長くなった理由も、全員の責任であるということをもう一度しっかり考え直して欲しいと思います。ほんとうに貴重なお時間を割いていろんなご意見をだしていただけたのはありがたいことですが、ださせて

しまったということもありますので、もう一度、しっかりとラインをまとめる副理事長・常任の皆さんは、委員長とよくコミュニケーションをとり全部説明してあげて、今度はこういったことがないようにしていただきたいと思います。

あとは、一つひとついっていきますと今年のようになりますので、一つひとつはいいませんが、1個だけ気になったところをいわせてもらいます。最後の協議事項でのPR映像、これは私がみるかぎりでは目的等がはっきりとわかってない感じがすごくしました。20万円かけてただ映像が綺麗になりましたと、逆に映像的に綺麗にしましたから20万円かかりましたというふうにはかえりません。確かにこの絵コンテだけなので、私も少しわからないのですが、ただ宇都宮市の名所を順番に並べて宇都宮JCの事業である宮まつり、わんぱく相撲等ありふれたものをただ並べていく、これでは誰でもできるようなPR映像です。これで20万円はどうかと思います。この映像を1年間使っていくわけですね。これは目的をよく考えてやってほしい。そして20万円の使い道も映像を綺麗にすることにかけるのは違うと思います。正直この位の映像であれば、多分5万円位でできるのではないかと実際おもっています。もしかすると無料でつくれるひともいるかもしれません。市民が行動にかえるといった後に宮コンが流れたり、ほんとうに一つひとつの部分をしっかりと考えているのか、すごく疑問に思うところです。ほんとうに20万円、これだけかける価値があるのかということ、こういう意見がでないように作ってきてほしいと思います。そこがすごく気になりましたので、しっかりと作って1年といわず、今後ずっと使えるくらいのもを作れたらいいのではないかと考えておりますので、是非とも委員会に持ち帰り伝えてください。

#### 16. 閉会宣言

<中島(崇)>

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2014年度 第3回 常任理事予定者会議議事録

議長：(専務理事) 中島 崇

議事録作成：総務委員会